

1 題材について

対 象 学 年	小学校第5学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年の内容 A表現(2)ア、イ(3)ア B鑑賞(1)ア
題 材 名	曲の気分をとらえて(全8時間) 【教材名】 表現教材:「冬げしき」「走れメロス」「気球よぼくらのゆめのせて」 鑑賞教材:「朝の気分」
題 材 目 標	歌詞の内容や情景を思い浮かべたり、物語の雰囲気をとらえたり、旋律の動きや伴奏の響きを感じ取ったりして、曲の山を盛り上げる歌唱表現や、強弱、速度、音色を意識した音づくりを工夫することができる。
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫(教材選択、教材配列、教材の時間配分等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱による表現活動の他に、物語の効果音やBGMを創る活動を位置付け、曲の山、強弱、速度、音の組合せ、間の取り方を工夫して活動することができるよう、歌唱と朗読によって物語の構成を工夫する。 ・一人一人の音楽的な感受(楽曲を特徴付けているリズム、強弱、速度等)を深めたり生かしたりすることができるよう、相互評価をしながら、表現を高めたり工夫したりするグループ活動を位置付ける。 <p>単位時間における工夫(音楽活動の基礎的な能力を培う指導・援助等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱、速度、音色を意識して効果音を工夫することができるよう、「走れメロス」の効果音づくりの前に、シンバルを使って、強い音と弱い音の感じの違い、速く打つ時とゆっくり打つ時の感じの違い、種類の違うマレットで打つ時の感じの違いが分かるように範奏する。 ・主体的な音づくりができるよう自分の表現したい場面を決め、グループで、その場面の音を感性的側面(雰囲気、曲想等)から構造的側面(音色、リズム等の音楽の諸要素)へと具体化しながら練習し、一つの作品に仕上げる。 ・本時の課題に迫るために、他のグループの演奏を聴く観点を「強弱、速度、音色、音の組合わせ」等の要素に焦点化する。
参 考 資 料	資料1:第3時に朗読や効果音やBGMの工夫を記入する学習プリント

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲 ・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				/
器楽	.	.	.	/
創作			.	/
鑑賞	.	.	/	
内容 のご まとの ま評 り価 規 準	<p>【歌唱】 創造的に歌唱表現にかかわり、歌唱活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【創作】 創造的に音楽づくりにかかわり、音楽をつくって表現する活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p>	<p>【歌唱】 斉唱や合唱などによる歌唱表現及び歌声のよさや美しさを感じ取るとともに、歌詞の内容や楽曲の構成を理解して表現を工夫し、拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きなどを感じ取り、それらを生かした歌唱表現の仕方を工夫したり、身体表現をしたりしている。</p> <p>【創作】 様々なリズムや旋律、曲の構成のおもしろさ、いろいろな声や音の響きのよさや美しさを感じ取るとともに、音楽表現のイメージを膨らませ、それらを生かした音楽づくりの仕方を工夫している。</p>	<p>【歌唱】 範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして歌うとともに、八長調及びイ短調の旋律を視唱している。また、呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある自然で無理のない声で歌っている。</p>	<p>【鑑賞】 主な旋律の変化や対照、楽曲全体の構成、音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわり、楽器の音色及び人の声の特徴、それらの音や声の重なりによる響きに気を付けて聴くとともに、曲想を全体的に味わって聴く。</p>
題材 の評 価 規 準	<p>自分自身の表現意図をもち、創作的に音楽づくりにかかわり、音楽をつくって表現する活動への意欲を高めるとともに、集団で協力して歌唱表現の仕方を工夫しようとしている。</p>	<p>歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、言葉の意味や歌詞の内容を感じ取ったりするとともに、歌詞と旋律、歌詞とリズムの関連などを感じ取って、それを生かした表現の仕方を工夫している。</p>	<p>理解した歌詞の内容や楽曲の構成にふさわしい表現の仕方を工夫して歌っている。</p>	<p>個々の楽器あるいは同じ仲間の楽器の音色や特徴を聴き分けている。</p>

	ア 音楽への関心・意欲 ・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
単位 時間 にお ける 具体 の 評価 規 準	<p>朗読部分から、メロスの心情や情景について読みとったことを、音楽づくりにつなげて楽しんでいる。（創作）</p> <p>8分の6拍子の流れを体全体で受け止め、ゆったりとした指揮や身体表現をしようとしている。（歌唱）</p>	<p>冬の景色を表す情景や旋律の動きから、3フレーズ目の曲の山を盛り上げる表現を工夫している。（歌唱）</p> <p>自分のイメージにあう音をつくるために、友達の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりしている。（創作）</p> <p>自由な発想を生かした音楽づくりを通して、他のグループのよさも取り入れて、音楽表現のイメージを豊かに膨らませ表現している。（創作）</p> <p>3フレーズ目をバランスがよいか聴きながら歌っている。また、4フレーズ目を、曲の山を盛り上げるためにクレシェンドしたりフェルマータを付けたりして工夫して歌っている。（歌唱）</p>	<p>理解した歌詞の内容から、強弱や速度に変化をもたせて表現している。（歌唱）</p> <p>オブリガートにあう自然で無理のない声で、美しい歌唱表現を求めて歌っている。（歌唱）</p>	<p>主旋律を演奏している楽器や、曲を盛り上げる多彩な響きの美しさを味わって聴こうとしている。（鑑賞）</p>

3 指導と評価の計画（全8時間）

時	教材	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	冬 げ し き	歌詞の表 す情景と、 旋律の動き から、曲の 山を感じ取 って表現す ることがで きる。	歌詞を読んで、情景を 思い浮かべて話し合う。 範唱CDを聴く。 冬の景色を思い浮かべ、 3フレーズ目の曲の山 の表現を工夫しよう。 歌詞と、範唱CDから 曲の山の表現を考える。 グループに分かれて表 現を工夫する。 発表会をして感想を交 流する。	イー 冬の景色を 表す情景や旋 律の動きから、 3フレーズ目 の曲の山を盛 り上げる表現 を工夫してい る。	観察 ・曲の山に 向かってク レシエンド する歌い方 やそのとき の表情から 評価する。	3フレー ズ目の3小 節目に向か ってクレシ ェンドして いけるよう、 一緒に歌う。
2	走 れ メ ロ ス	後半部分 の強弱の変 化をつけた り、歌詞の 内容によっ て速度を変 えたりして 歌うことで、 場面の情景 を伝えるこ とができる。	物語のあらすじを知る。 朗読の部分を読み、場 面を思い浮かべる。 歌詞の内容が伝わるよ うに、強弱や速さの工 夫をして、表現しよう。 歌詞の内容から、表現 を考える。 1、2、3番のグルー プに分かれて表現を工 夫する。 グループごとに発表を して、感想を交流する。	ウー 理解した歌 詞の内容から、 強弱や速度に 変化をもたせ て表現してい る。	観察 ・グループ 練習とグル ープ発表の 場で、自分 の考えを仲 間に話したり、歌詞の 内容が伝わ るように強 弱、速さの 変化をつけ た演奏から 評価する。	強弱や速 度に対する 表現の願い を聞き、一 緒に強くし たり弱くし たりして歌 うことを通 して、願い にあった表 現に高めて いく。
3		メロスの 心の動きや、 その情景を 感じ取り、 表現したい ことを考え、 自分のイメ ージに合う 音づくりを 楽しみなが ら活動する ことができる。	前時に工夫したことを 思い出して歌う。 メロスの心の動きや、 場面の情景を読み取っ て、自分のイメージに 合う音づくりをしよう。 メロスの気持ちや場面 の様子、聴こえる音な どを読み取って、学習 プリントに書き込む。 3つのグループごとに、 どの楽器でどのような 効果音やBGMを作る か話し合う。	アー 朗読部分か ら、メロスの 心情や情景に ついて読みと ったことを音 楽づくりにつ なげて楽しん でいる。	学習ノー ト ・メロスの 心の動きや 場面の情景 を読みと り、表現し たい音につ いて書き込 んだ内容か ら評価す る。	気持ちや 情景を思い 浮かべやす い言葉から どのような 音が想像で きるか一緒 に考え、工 夫できたこ とを認め励 ます。

		自分のイメージに合う音づくりをする。			
4 本時	メロスの心の動きや情景のイメージにあう音をつくるために、仲間の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりして、効果音やBGMを表現することができる。	前時に工夫したことを思い出して歌う。 それぞれの場面の朗読部分に合う、音やBGMを工夫して、劇団「」の表現に近づこう。(劇団の「走れメロス」を1学期に鑑賞した) 3つのグループに分かれて、どの楽器でどのような効果音やBGMをつくるか確認し合う。グループごとに表現の工夫をする。グループごとに発表会をして感想を交流する。今日のまとめの演奏をする。	イー 自分のイメージにあう音をつくるために、仲間の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりしている。	観察と感想の内容 ・グループ練習とグループ発表で、朗読とタイミングを合わせながら、強弱、速度、音色などを工夫した演奏や、それらの観点を意識した感想の内容から評価する。	個のイメージ(感性的側面)と楽器の奏法(構造的側面)がつながるよう、速度を変えたり、強さを変えたりして試すよう助言する。
5	歌や朗読、つくった効果音やBGMをつないだり、他のグループの表現のよさを取り入れたりして、音楽物語をまとめることができる。	前時のグループごとの工夫について思い出す。 他のグループのよさも取り入れて、つながりの部分や自分たちの部分を練習して、音楽物語を完成させよう。 グループごとに他のグループの演奏を聴いて思ったことや、もう一度考えた方がいいことを話し合う。 よりよい表現になるように、グループごとに練習をする。 全員で1～3番まで通して、音楽物語としてまとめる。	イー 自由な発想を生かした音楽づくりを通して、他のグループのよさも取り入れて、音楽表現のイメージを豊かに膨らませ表現している。	観察 ・他のグループの工夫を取り入れて、自分の演奏を高めようとする練習の様子から評価する。	他のグループの表現のよいところをもう一度聴き、自分の表現に取り入れることができるようになる。

6	<p>気球よぼくらのゆめのせて・朝の気分</p>	<p>8分の6拍子を曲想や情景から感じ取り、拍の流れにのって楽しく歌うことができる。</p>	<p>歌詞から情景を想像する。 範唱CDを聴いて、8分の6拍子の感じをつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気球に乗って空に浮かんでいる様子で、歌ったり、聴いたりしよう。</p> <p>8分の6拍子に合わせてリズムにのって体を動かしたり、指揮をしたりする。 気球がゆれながら飛んでいく様子を思いながら歌う。 「朝の気分」を8分の6拍子の指揮をしながら聴く。</p>	<p>アー</p> <p>8分の6拍子の流れを体全体で受け止め、ゆったりとした指揮や身体表現をしようとしている。</p>	<p>観察</p> <p>・8分の6拍子のリズムにのって体をゆらしながら歌ったり、指揮をしたりする様子から評価する。</p>	<p>腕や肩に手を添え、拍子にのって自然に身体表現ができるよう補助をする。</p>
7		<p>副次的な旋律の役割について知るとともに、主旋律をひきたてるように、音量をおさえ、自然な響きの声で歌ったり、曲を盛り上げる多彩な響きの美しさを味わって聴くことができる。</p>	<p>「気球よぼくらのゆめのせて」の副次的な旋律オブリガートを聴き、その役割を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主旋律をひきたてるオブリガートになるような歌い方を考えよう。</p> <p>オブリガートを練習する。</p> <p>「朝の気分」をオーケストラの楽器の音色や響きの美しさを味わって聴く。 主旋律を演奏している楽器やその楽器をひきたてる副次的な旋律の役割を確認する。</p>	<p>ウー</p> <p>オブリガートにあう自然で無理のない声で、美しい歌唱表現を求めて歌っている。</p> <p>エー</p> <p>主旋律を演奏している楽器や、曲を盛り上げる多彩な響きの美しさを味わって聴こうとしている。</p>	<p>観察</p> <p>・主旋律をひきたてるための、やわらかい声や音量を下げた歌い方から評価する。</p> <p>学習ノート</p> <p>・オブリガートの役割についての考えを書いた学習ノートから評価する。</p>	<p>やわらかい声でオブリガート唱ができるよう、体の力をぬいて歌ったり、頭声的発声をしたりするように助言する。</p> <p>副次的な旋律の役割について、範奏を通してわかりやすく指導する。</p>
8		<p>3フレーズ目の主旋律とオブリガートの音の重なりを</p>	<p>「気球よぼくらのゆめのせて」のオブリガートの旋律と役割を思い出す。</p>	<p>イー</p> <p>3フレーズ目をバランスがよいか聴きながら歌って</p>	<p>観察</p> <p>・グループ練習で、3フレーズ目の balan</p>	<p>オブリガートの役割についても一度確認したり、パ</p>

	<p>感じ取って、バランスを考えて歌ったり、4フレーズ目の旋律の抑揚を生かした歌い方を工夫したりして、二部合唱をすることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループで3フレーズ目の主旋律とオブリガートのバランスを考え、4フレーズ目の曲の山の歌い方を工夫したりして、二部合唱をしよう。</p> </div> <p>グループに分かれて合唱表現の工夫をする。お互いの工夫を聴き合い、感想を交流し合う。それぞれのグループのよさを取り入れて、まとめの演奏をする。</p>	<p>いる。また、4フレーズ目を、曲の山を盛り上げるためにクレシェンドしたり、フェルマータを付けたりして工夫して歌っている。</p>	<p>ス、4フレーズ目の曲の山の歌い方について考えや願いを出し合ったり、お互いに聴き合いながら工夫して歌う姿から評価する。</p>	<p>ートの人数をいろいろ試したりするよう助言する。</p>
--	---	---	--	---	--------------------------------

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

メロスの心の動きや情景のイメージにあう音をつくるために、仲間の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりして、効果音やBGMを表現することができる。

(2) 本時の位置

4 / 8時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む / 高 め る	1 前時にそれぞれのグループごとで工夫したことを思い出して歌う。 ・強弱をつける ・速さをゆっくりにしたり、速くしたりする。		・様子を思い浮かべて歌うことができるように、前時の学習の足跡を掲示する。
	それぞれの場面の朗読部分に合う、音やBGMを工夫して、劇団「 」の表現に近づこう。(劇団 の「走れメロス」を1学期に鑑賞した。)		
	2 3つのグループに分かれて、どの部分に、どのような効果音やBGMを入れるのか話し合う。 ・メロスの気持ちやそのときの情景についても話し合う。		・場面に合う表現をするために、3つの観点(速度、強弱、音色)を工夫するように助言し、3種類の範奏を示す。
	3 自分のイメージに合った音の楽器を使って表現の工夫をする ・聴き役を決めて、感想を言い合いながら、作品を練り合げていく。 ・劇団 の「走れメロス」を想起しながら、何度も繰り返し練習する。	イー 自分のイメージにあう音をつくるために、友達の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりしている。	個のイメージ(感性的側面)と楽器の奏法(構造的側面)がつながるように、速度を変えたり、強さを変えたりして試すよう助言する。
	4 グループごとに、発表会をする。 ・評価の観点を示す。	観察と感想の内容 ・グループ練習とグループ発表で、朗読とタイミングを合わせながら、強弱、速度、音色などを工夫した演奏や、それらの観点を意識した感想の内容から評価する。	
	5 それぞれのグループの工夫やよさを交流する。		

/ ま と め る	6 それぞれのグループのよさを 取り入れて、まとめの演奏をす る。 ・一人一人が振り返りをする。		・それぞれのグループ で、3つの観点にこだわって表現していた本 時の成果を価値付け る。
-----------------------	---	--	---

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準 イー

自分のイメージにあう音をつくるために、友達の表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな楽器で音の出し方を試したり、強弱、速度、音色などを工夫したりしている。

(2) 評価の実際

評価の方法

グループ練習・発表の観察

- ・自分のイメージに合うように、選んだ楽器で、強く演奏したり、弱く演奏したり、速さを変えたりして、何度も練習している姿から評価した。
- ・仲間の演奏から、強弱・速度・音色にこだわって聴き、その観点から感想が言えたかどうかで評価した。

判断の事例

Cと判断

- ・強弱・速度・音色の3つの観点にこだわって練習することができず、「町の静かな様子」を表現するために、ただトライアングルをならしているだけだった児童をCとした。

Aと判断

- ・「わずかな希望が生まれてきた様子」の表現を練習していた児童は、奏法を変えながら繰り返し練習し、自分のイメージに合う音をさがしていた。具体的には、大太鼓で、小刻みに弱い音からクレシェンドし、強い音で終わる表現をした。また、「間の取り方」も意識していたため、最後の音を打つタイミングもうまく、その場面の心情の変化とともに緊迫感を見事に表現できていたのでAとした。

(3) 個に応じた指導の実際 (Cと判断される状況への働きかけ)

本時に把握したCの児童に、次時の第5時で、「この間の他のグループの演奏で、よかったなというところはどこかな。」と働きかけ、一緒によかったグループの表現を聴いた。よかった理由を聞くと、「音が、だんだん速くなったり、強くなったり弱くなったりしていたから。」と答えた。その後、本人のイメージを感性的側面から確認し、もう一度練習に入った。前時は、ただトライアングルを打つだけだったが、「町の静かな様子」をイメージしながら、速さを変えてみたり、強く打ったり弱く打ったりして、一番いい音をさがしている姿が見られた。また、トライアングルの持ち方や奏法も正しくかったので、授業外で正しい奏法を指導した。